

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

東京国際ブックフェア2003	1
理事会報告.....	2
委員会報告・会員の動き.....	3
海外ニュース.....	4
日本の出版事情 - 2003	5
新・パソコン外論考(其35)	6
出版文化史逍遙(78) 洋書の歴史雑記帳 XXXIII]...7	

東京国際ブックフェア 2003

< TIBF 2003 >

東京国際ブックフェア2003が去る4月24日～27日の4日間、東京・有明「東京ビックサイト」で開催されました。

今年は会場が東2・3ホールに変わると共に、面積が6000坪に広がり（昨年は5400坪）過去最高の5万4千人余の入場者を記録した割りには、例年に比べて心持ちゆったりした感じでした。出展社は国内452社、海外27カ国・地域から107社、合計559社に増加しましたが（昨年は541社）、中国・韓国からの出展が大幅に伸びているのに対して、国内の出展社が減少したそうであまり気掛かりな状況ではありませんでした。ここにも景気の低迷が影響しているのでしょうか。

例年開会劈頭を飾る著名人による基調講演、今回は作家・立花隆さんの「これからどうなる、どう

する出版業界～出版業の未来はどこにあるのか」でした。日本経済と軌を一にして不況にあえぐ出版界の現状とその要因を、さらには電子ブックの技術開発の現状と未来像について、立花さん独自の視点に立ったお話をされました。読者の質は依然として高いにもかかわらず出版社の企画力が低下していることが出版不況

の最大の要因と断じ、映像メディアとの競合、電子ブック市場の拡大などにも言及したうえで、今後情報メディアが多様化する中にも本はなくならない

し、しっかりした本が作れる編集者の役割がますます大きくなる、と出版人、書店人にとって将来への示唆に富んだ内容でした。

各出版社ブースでの即売は新刊書を中心におおむね順調だったそうですが、出版社が想定していた売れ筋や購買者層とはややズレがあったとも聞きました。出版社にとって自社の宣伝、新刊書紹介の場としてばかりではなく、読者の要求や市場の動向を直接捉える場としてのフェアを活かしてほしいものです。そうすることが立花さんの言う「企画力」の向上につながるように思います。

さて、自他共にTIBFきっての目玉企画と誇る「洋書バーゲンセール」はお陰

様で今年も絶好調！ 売り場の面積が約20%広くなってレジコーナーや通路にゆとりが生れ、お客様にとっては見やすい、買いやすいセールだったように思います。今年も年明けからこのバーゲンセールについての問い合わせが協会事務局にあり、4月に入ってから毎日2～3件と、関心の高さが顕著に現れていまし



た。その結果としての売上げは、これまた過去最高の約1,500万円でした。平均単価は約1,000円でしたから4日間に15,000冊捌いたことになります。現場で汗と埃にまみれて奮闘された参加社社員の皆さんには改めて敬意を表します。

この洋書バーゲンセールの人気は何よりも値段の安さに負うところが大きですが、日頃読者にこれほどの量と多分野にわたる洋書に接する機会がほとんど無いことにも因るのではないのでしょうか。フランス語やドイツ語の書籍を満載したワゴンが最終日にはほとんど空になる現実を目の当たりにすると、それもあながち勝手な思い込みとは言えないように思います。さらに、探していた英英辞典が思いがけず手に入った、と筆者の友人が喜んでいましたし、「音楽の本がある！」とワゴンを夢中で漁っている人もいました。書店の原点である、来て、見て、触ってお買い上げいただく、また、何か発見があるかも知れないという期待に応えられる場になりつつあるようにも感じました。次回へ向けて改善すべき課題が幾つかあります。会員の皆様のお知

恵とお力により、一層充実した「洋書バーゲン」にしていきたいと思います。いっそのこと、在庫品の持ち寄りセールではなく、〔期間・場所限定洋書店〕とみなして運営（＝経営？）を考えてみてはどうでしょう。そのことが出展された会員各社の今後の商いに何か資することになれば幸いです。

今年もTIBFには中国、台湾からの出展があり、多数の関係者が来日しました。時あたかも新型肺炎SARSが猛威を振るい、世界を震撼させていましたが、思い返してみると会場内外で防護マスクをしている人は殆どいませんでしたし、自分自身もマスクを着けようという発想が浮かびませんでした。来日した人々には感染者も患者もいなかったようで、大勢の子どもや高齢者が参観する中、事なきを得ましたが、これはむしろ際どい僥倖に恵まれたと見なすべきでしょう。行政当局の危機管理能力を云々する前に、自分の身は自分で守ることをまず心掛けねば、と自戒の念を強くしたブックフェアでした。〔事務局 高橋記〕



理事会報告

4月22日（火）

1. 協会ホームページのアクセスについて、データを取り始めた2000年11月以降の詳細記録がホームページ・ダイレクトリー委員会より報告された。
2. 正会員ブックマン(株)の3月31日付け退会届を受理した。2003年度期首在籍会員数は72社（正会員65社、賛助会員7社）となった。
3. 2003年度定時総会の件

2003年度予算案・一般会計収入の一部及び時期繰越金を修正した。

202年度決算・総務委員会報告を承認した。

委員会担当理事の互選を新体制発足後に行うこととし、総会議事の一部を修正した。

4. 新体制の課題に次の事項を加える。

役員選出ルール（含理事定数）の見直し
理事会方針の具現化

第42回 麻雀大会

2003年3月7日(金)
於・雀荘中信

第42回麻雀大会は3月7日(金)東京駅八重洲北口前の雀荘中信にて開催されました。年度末、或は決算月等の関係か参加者は予定より少なく16名でした。

6時15分から半荘3回の高得点者順に組み替え方法で熱戦が繰り広げられ、結果は新進気鋭の鶴竜次氏(東亜ブック)が毎回トップの高得点で優勝されました。主な上位入賞者は下記の通りでした。

優勝 鶴 竜次(東亜ブック) + 131点
準優勝 鶴 三郎(東亜ブック) + 32点
第3位 西野久雄(三友社) + 28点

優勝者のスピーチで締め括り、午後10時過ぎ散会しました。

村山(ゲート書房)記

第108回 72会ゴルフコンペ

2003年3月15日(土)
会 場：狭山ゴルフクラブ
くもり時々小雨
参加者：15名

今回は村田理事長をお迎えして、皆様と楽しいゴルフコンペを開催することができました。誠にありがとうございました。

結果は以下の通りです。

【成績表】

		グロス	ハンデ	ネット
優勝	小林謙作(医学書院)	89	12	77
2位	鶴 竜次(東亜ブック)	90	8	82
3位	関口晴生(日本出版貿易)	91	8	83
4位	金原 優(医学書院)	95	10	85
5位	斉田利幸(三善)	90	4	86
ベストガウス	小林謙作(医学書院)	89		
ドラゴン	金原 優		関口晴生	
	鶴 三郎		鶴 竜次	
ニアピン	中林三十三		西山幸児	

次回は5月24日(土)高根CCにて開催いたします。
皆様のご参加お待ちしております。

(東亜ブック 鶴 竜次)

会 員 の 動 き

【代表者変更】

会員名：幸洋商事株式会社
代表取締役
新 任：伊 藤 邦 輔 氏
退 任：淀 縄 憲 一 氏
異動日：2003年5月



◆ フランクフルト・ブックフェア続行

フランクフルト・ブックフェアの開催地について、ドイツでの主催者である Börsenverein des Deutschen Buchhandels は、2010 年までは引き続きフランクフルトで開催することを決定した。会議場および地元ホテルに関わるコストが年々高騰するなか、この世界最大の国際ブックフェアの開催地をミュンヘンに移すことが検討されていた。4月8日、急遽開かれた Börsenverein の重役会議で、Frankfurter Messe GmbH からのオファー（200 万ユーロ / 130 万ポンドの値下げ）

について検討がなされた。同時に、今後 Frankfurter Messe がフェアの運営面での参画の度合いを高めることも検討された。この会議での詳細は未だ公表されていない。フェア運営陣では、ブース面積などのコストが削減されると見ている。また、フランクフルトのホテル料金の高さと融通の効かなさが問題視されてきたが、この点も改善の兆しが見られ、フェア参加者を対象にした特別料金が検討されている。

the Bookseller. com Informer APR11,2003

◆ 北京ブックフェア延期

この5月に予定されていた北京ブックフェアは、新型肺炎 SARS 感染の危険から、9月に延期された。このフェアは参加出版社が年々増加しており、今年のフェアにはこれまでで最多の出版社が欧州から参加すると見られていた。

the Bookseller. com Informer APR25,2003

Springer 社を Cinven and Candovar が買収

ヨーロッパの代表的投資会社 Cinven and Candovar は5月13日付けの Press Release で Bertelsmann Springer を同社の親会社である Bertelsman AG から 1.05 billion ユーロで買収したと発表した。この Cinven and Candovar は今年の1月に Walters Kluwer から Kluwer Academic 社を買収した会社である。そして同社は Kluwer Academic と Springer の合併を検討しているとのことである。もしこの合併が実現したなら年商 880million ユーロの巨大な科学出版社になる。しかしそれでも Elsevier の STM division の年商 2,000 million ユーロの半分にも及ばないし、Reed Elsevier の全体の売上 8,000million ユーロの 10%に過ぎない。

Springer の年商は 731million ユーロと報告されており、Kluwer Academic は 151million ユーロと言われている。Cinven and Candovar は Kluwer の買収に 600 million ユーロを払ったと言われているので、Springer は年商が Kluwer の 5 倍以上あるにも拘わらず、買収額はその 2 倍以下ということになる。EBITDA が発表

する資料によれば、Springer の利益率は 14% であり、Kluwer は 35% の利益率であるため、買収額の違いが理解できる。

Springer はジャーナルを 700 タイトル発行し、年に 4,000 タイトルの書籍を刊行しているので両社を合わせるとジャーナル 1,400 タイトルと 5,200 点の新刊を発行する巨大な、無視することのできない STM 出版社になる。

Taylor and Francis はほかの投資会社と組んで Springer の買収劇に加わっていたので、もしそれが実現していたら恐るべき会社になっていただろう。それでも T&F は世界で 3 番目に大きな科学出版社であることに変わりはない。Blackwell の買収はできなかったが T&F は今後も引き続いてほかの出版社を買収し STM 出版社として確固たる地位を築くよう競合していくに違いないだろう。

『ASA News Issue 79, 14 May 2003』

ニュース提供：ユサコ株式会社

日本の出版事情 - 2003年

この10年間、米国から輸出される英語書籍にとって、日本は最大の市場であり続けた。日本の人口は米国の3分の1くらいしかないが、長引く不況に苦しみながらも、米国輸出先のトップ10のなかで唯一、ドル・ベースによる米国からの輸入額を増やした（2001年 / 1億2千930万ドル）。

全国出版協会・出版科学研究所（The Research Institute for Publications）の統計によると、2002年、日本の書籍販売総額は79億ドルにのぼった。その中でもハリー・ポッター・シリーズ（日本語版の版元は静山社）は、1冊当りの平均単価30ドルという、日本書籍の平均価格の3倍もしながら、昨年だけでも約1億6千750万ドルもの売上を記録した（同研究所の試算による）。

総販売部数こそ微減したが（7億3千900万部）、年間7万2千タイトルもの新书籍が出版された。これは前年（2001年）比4.4%増であった。2001年、2002年とも最大の伸びを示したのは、児童向け絵本で、2年間で41%もの増加を記録した。

2002年、ハリーポッター第4巻は、ミリオン・セラーを記録した上位6タイトルのなかで唯一の翻訳書籍であった。しかしその前年、2001年のトップセラー・タイトルのうち5点までが翻訳書だった。そのうち3点をハリーポッター・シリーズが占めたのだが、スペンサー・ジョンソン著『チーズはどこに消えた?』（Who Moved My Cheese?）（扶桑社）が400万部以上を売って第一位となった。1945年以降、翻訳書がベストセラーの第一位になったのはこれが2度目で、初めてその栄誉に輝いたのは1974年刊行のリチャード・バッグ著『かもめのジョナサン』（Jonathan Livingston Seagull）だった。

洋書市場では、翻訳書がベストセラーになると原書も同様に売れるものである。大手書籍輸入業者である洋販の渡辺氏によると、ハリーポッターの原書（英語版）も100万部以上販売され、Who Moved My Cheese?は、2001年に同社で一番売れたタイトルだったという。

米国にとって皮肉なことに、日本の市場では英国版のほうが良く売れているとのことだ。「ハリーポッター・シリーズの英国版を購入した読者は、次の巻が出

た時も再び英国版を買うものだ」と渡辺氏は言う。「米国の出版社にとって、英国に追いつけず、国際市場で後手にまわるとは、大きな痛手だ」渡辺氏は、「これは自国に充分大きなマーケットを持つことから、輸出に注力しない米国出版社に特有の状況だ」と指摘する。

日本の出版産業における大きな問題は再版制度だろう。出版社から流通業者、卸業者、そして小売店という販売の流れを守るため、書籍の価格をコントロールすることで、業界は安定していられる。しかしながら、その結果として、書籍の価格は高い水準にとどまり、零細な小売店や業者が廃業に追い込まれている。

Amazonは、米国と同じ価格で読者に海外書籍を直送し、その営業は好調と発表されているが、詳細な数字は明らかにされていない。今年6月には、大手洋書輸入業者である洋販とタトル商会が合併し、厳しさを増している競合に対応している。

過去10年にわたり、日本の出版業界は、公正取引委員会により再版制度を見直すよう勧告されてきた（この制度はフランスを除く世界各国で廃止されている）。書籍の低価格化が進めば、少なくとも米国の一般書籍には恩恵があることは、Costcoのような小売業者の例で明らかである。しかしながら、長年の伝統および経済状況の停滞を鑑みて、公正取引委員会は昨年、この再版制度の継続を認める決定をしている。

日本では大型小売店が主流となりつつあり、昨年一年で開店した書店は486店、閉店が1,285店であった。最大手の小売店（彼らはまた、海外からの学術書輸入でも最大規模である）、丸善と紀伊國屋は、精力的にその小売店舗を拡大している。

2004年、丸善は、6万平方フィートの大型店舗を東京駅前に開店する予定である。一方、紀伊國屋は2002年3月に1万8千平方フィートの店舗を神戸に、4月には横浜に2万5千平方フィートの店舗を開店した。小売店チェーン阪急（ブックファースト）は、2002年2月、青葉台に1万9千平方フィートの店舗を開店した。

（Publishers Weeklyの**アジア担当**、Ms. Sally Taylorの**報告抜粋**）

新・パソコン外論考(其35)

宇田川一彦

Autumn in New York/ニューヨークの秋

■子曰、...、夫達者、質直而好義、察言而觀色

The Master said, "... Now the term 'getting through' describes a man who is straight by nature and fond of what is right, sensitive to other people's words and observant of the expression on their faces,..."

(論語/顔淵篇・Confucius/The Analects/Book XII)

【超拙意識；先生が言われた。「...“達”とは、本当に正直で、正義が好きで、人と接するとき、相手の言葉の意味をよく理解し、相手の感情をよく観察することで得られるものだ。...】

【外注：弟子の子張が、孔子に「達」(自由なよき社会人)と「聞」(有名人)という2つの概念を問うたことに對し答えた章です。】

Internet について (博物館海外編—New York 4 =)

▲ニューヨーク・セントラル・パークのイーストサイドには、俗にミュージアムマイルといわれる一画があります。マンハッタンを南北に走る大通り、公園東側の五番街(5th Ave.)沿いの、東70丁目から東104丁目までの約1マイル(1600m)間に立ち並ぶ美術館群があることから呼称しているようです。

この美術館マイルのはじまる、10ブロックぐらい手前、セントラルパークに東下、5番街/東59丁目のThe Plaza (<http://www.fairmont.com>)があります。玄関に、赤いPorsche 911GT2で乗りつけて、チップをさりげなく渡し、valet parkingを利用するご婦人を目にして、さすがN.Y.と感心していました。

とまれ、プラザホテルのボーイが、にこやかに開けてくれるドアから、ティールームに向かい、美術館・博物館めぐりにそなえ、一休みしました。ついでに、用を足しました。済ませて、なんとなく変な雰囲気を感じましたが、……。まさに手を洗い終わりハンカチーフを探しているときに、黒い蝶ネクタイ、品のよい初老の紳士が、にこやかに紙の手拭きナプキンを手渡してくれました。「あなたの行為に多謝!」といい、ポケットを探りましたが、ダイムと10セントが各1枚、5ドル、10ドルのグリーンバックのみ。じつに悔しいけど、5ドル札でチップを渡しました。彼は、調子をつけて「わたしは、あなたに多謝します。サー!」

「サーの称号なんぞは、もってないがね。旦那の意味だったら、旦那じゃねえよ・・・」と日本語でつぶやきながら、ホテルをでました。コインと1ドル札を忘れてはいけないうあ、と感じた次第です。

閑話休題。このミュージアムマイルには、次ぎの7つの美術館・博物館が、軒を並べています。

・フリック・コレクション (Frick Collection/site:frick.org), 70丁目。コークスと鉄鋼で財を成したピッツバーグ出のH.C.フリック(1919年没)の邸宅を美術館にしたもの。ルネッサンスから近代までの絵画が収集されています。絵画は、居室の装飾を残したまま展示されています。ホルバインの「トマス・モア卿」、フラゴナールの恋に関する一連の作品など、鑑賞している雰囲気が、いいものです。入館料10ドル。カメラは、ダメ。収蔵作品の絵はがき、一押し。

・ホイットニー美術館 (Whitney Museum of American Art/site:whitney.org), 75丁目、マジソンアベニュー(5番街より1ブロック東よりの大通り)に彫刻家のホイットニー夫人のアトリエ(もともとはグリニッジ・ヴィレッジ)を現在地に1966年に移転したもの。アメリカ現代のアートの所蔵作品は、1万数千点に及ぶとか。オキーフやボロック等々、芸術家も1千数百人。入館料10ドル(おすすめは、金曜日の夜です。夜6~9時、入館料随意で、1ドルでも可)。

・メトロポリタン美術館* (site:metmuseum.org), 82丁目、ここは、できれば2日かけて必見。既述。

・グッゲンハイム美術館* (site:guggenheim.org), 89丁目、要2時間、メトロのついでに必見。既述。

・国立デザイン・アカデミー (National Academy of Design/site:nationalacademy.org), 89丁目。入館料8ドル。高級邸宅です。時間があれば・・・。

・クーパー・ヒューイット博物館 (Cooper-Hewitt National Design Museum/site:ndm.si.edu), 91丁目、約30万点の食器・家具・建築工芸品という装飾品を収蔵。入館料8ドル(火曜の夜、5~9時は無料です)。この建物は、鉄鋼王カーネギーの旧邸宅。

・ジューイッシュ博物館 (The Jewish Museum/site:jewishmuseum.org), 92丁目。入館料8ドル。

結論。美術・博物館のはしごは、1日2館までです。1館最低3時間は、必須。「絵の印象」が残らないのです。この「はしご」は。今回は、アメリカ自然史博物館をと思っています。(乞うご期待)

洋書の歴史雑記帳〔XXXIII〕キリシタン版の原書(7) 鈴木 陽 二

天草(4)

前回『コンテムツス・ムンヂ』と細川ガラシャについて触れたが、次のことを付け加えておきたい。

浅井長政の姉はキリスト教に皈依して洗礼名をマリア(本名不明)と称し、キリシタン大名の京極高吉に嫁したが、その子高次もキリスト教に入信した。浅井長政の妻は信長の妹お市であることは周知のことだが、その間に生まれた常光院(淀君の直ぐ下の妹)もキリシタンで、マリアの子息高次と結婚した。いわば血族結婚ではあったが、その後裔は徳川幕府により讃岐丸亀に移封されて明治維新まで統治した。

話は横道にそれるが、天保の改革で辣腕を奮った老中水野忠邦配下の江戸町奉行は、「南」が鳥居甲斐守耀蔵で「北」が遠山左衛門丞景元(遠山の金さん)だった。鳥居は水野の改革を徹底して支え、特に蘭学者を苛烈に弾圧して渡辺崋山・高野長英などの優れた蘭学者を死に追いやったことは、以前述べた。その酷薄な市中取り締まりにより、名前をもじって妖怪(耀甲斐)と呼ばれたほどだった。水野の失脚後、鳥居は丸亀藩お預けとなり、謹慎の身をかこちながら明治を迎えることになる。丸亀は比較的最近まで武家屋敷町が残されており、その中に鳥居の旧居もあったということだが、筆者が丸亀を訪れたときには既になく、ただ天空に峙つ丸亀城だけがかつて金毘羅詣でで賑わった城下町丸亀の姿を偲ばせるのみだった。

さて、京極マリアに戻ろう。フロイスによる1596年のイエズス会日本報告書を見ると、太閤の宮殿深く住んでいた彼女(マリア)は、信心の書として『コンテムツス・ムンヂ』と、ジェルソンという一冊以外は持っていないといって、数冊の信心書を司祭たちに求めたという。そこで、修道院長は、彼女に『カテキズモ(ドチリナキリシタン)』『告白の手引き』『黙想書』の三冊を送った、と記されている。『ドチリナキリシタン』は既に加津佐でも天草でも翻訳・印刷されていたが、後者の2書について筆者はキリシタン版との同定ができないので原書だったのか翻訳だったのか、記せないことはお赦しいただきたい。

ともあれ、知識階級の信者たちの間では、信仰の書が強く求められ、読まれていたことが、理解できる。

長崎(1)

1597(慶長2年)天草の印刷所(コレジオ)は長崎に移転した。長崎の中でも3度移転しているが、結局家康のキリシタン禁止表明の1612(慶長17年)ごろまでの約15年間に活発な印刷活動が行なわれて、20点ほど(現存15点)の長崎版が刊行されている。

長崎を歌った流行歌は多く、エキゾチックな哀愁に満ちた詩と旋律は、少年のころの私に長崎への憧憬を無性にかき立てたものだった。ここ数年は、毎年のように長崎を訪れている。今では、五百年を越える歴史を語る遺跡は数少なくなっているが、それでも長崎は異国との長い通交の歩みが底流となって息づいていることを、そここに感じることができる。長崎におけるキリシタンの証しは、幕府の徹底した排除によりほとんど消滅して、わずかに石碑や案内板によって知るばかりだが、出島のオランダ商館の復元に見られるような日蘭関係を物語る史跡や、幕末の交易で開かれた居留地の諸建造物などが大事に保存され、東山手や南山手の洋館群は国から「重要伝統的建造物群保存地区」の指定をうけて、訪れる人々に異国情緒あふれる景観と共に幕末の日欧交流の歴史を教えてくれる。

長崎(市)が史上に現れるのは13世紀半ばごろのようだが、南北朝時代から長崎を領有していた長崎氏は、戦国末期に至って甚左衛門純景が盟主の大村純忠とともにキリシタン信者になった。1567(永禄10年)に宣教師のアルメイダが五島・長崎などで布教を開始し、翌々年の1569(永禄12年)には土地の寄進を受けて「トードス・オス・サントス」教会が設立された。創立当初どんな聖堂だったか不明だが、ガスパル・ビレラによる1571年の『イエズス会士日本通信』には、「同六十九年、かの武士が予に与へたる寺院を破壊し、貧弱なれども甚だ美麗なる会堂を造り」とあるので、小さく美しい教会堂だったのだろう。かの武士とは長崎甚左衛門のことで、彼は現在の桜馬場町の高台に城を構え、寄進した土地はその山続きの寺域だった。長崎の町は、そもそもその山麓に開けた城下町で、そこから海に向かって細長い岬が続いていたことから長崎と呼ばれるようになったのだという。〔参考文献：長崎県教育委員会『長崎のキリシタン学校』/瀬野精一郎『長崎県の歴史』〕 (元丸善・本の図書館長)

● Carry a World-class Library in Your Pocket!

STEDMAN'S CONCISE

Medical Dictionary for
the Health Professions
for PDA

4th edition

PDA版
ステッドマンコンサイス医学英英辞典 第4版

- おなじみのステッドマンコンサイス医学英英辞典がPDAソフトとして登場。必要とする医学用語に、PDA端末から即座にアクセスすることが可能。
- Lippincottでは、ワシントン・マニュアルなど従来の書籍版から読者に好評を得てきたタイトルを、LWW Mobile Medicineシリーズとして、携帯・検索・情報管理に便利なPDA版で刊行。
- 豊富な情報源の中から、各国の研究者によって吟味された、現場に即した最新の診療指針を常にポケットに納めておくことができます。
- Palm OS, Pocket PC 搭載機種に対応。



◆4th ed. 2002 ISBN 0-7817-4430-X 本体¥8,180 (本体)

◆表示画面は本体縮小です。また、価格は厚紙の変更、海苔の反動などにより変更することがあります。

◆ご注文は最寄りの医学書取扱店、洋書取扱店へお願いいたします。



Lippincott Williams & Wilkins

LWW医学書院

〒113-0033 東京都文京区本郷3-23-14
Tel. 03-5689-5400 Fax. 03-5689-5402
E-mail: bsales@lww.co.jp